

# 子どもの国だより

Vol. 11 発行2005年2月

## 2004年10月～2005年1月までの活動

ゆめの木教室 放課後学習支援

小学生 月曜日～金曜日 14時～18時

中学生以上 都合の良い日を決めて個別対応

わくわく教室 体験学習 (第3土曜日 15時00分～17時)

そら 中学就学年齢以上の子どもの自立支援 (水曜日 18時30分～20時)

ふれあい家族教室 文化庁委嘱協力事業「親子参加型日本語教室」

交流会 (第3土曜日 18時～)

家庭訪問(保護者との話し合いが必要な場合、随時実施)

子どもたちの活動月報の作成・配布(毎月各家庭に配布)

理事会 (隔月1回)

事務局会議 (毎月1回)

スタッフ会議 (第1土曜日)

## ふれあい家族教室(交流会)



「 ハッピーバースデー トゥーユー 」



「早く食べたいなあ～」

## 平成 16 年度後半の活動を振り返って

昨年はオリンピックを始め、明るく心弾むような話題の多くある中に、一方では国の内外、風水害による被害の余りの大きさに驚くとともに、胸の塞がる思いです。そんな中でも、私たちの活動が日増しに充実を見ますことは、偏に、皆さま方の熱いご支援によるものと深く感謝致しております。

さて、平成 16 年度も後 2 ヶ月となりました。現在、理事会等で今年度事業の振り返りを行ない、次年度に向けて準備を進めています。

今年度の活動は学校、保護者、地域との連携強化を目標に事業展開を行ないました。放課後学習支援「ゆめの木教室」の活動では、毎月定期的に西保見小学校、東保見小学校の先生方と情報交換を行ない、心配な子どもの指導等について、ご相談することができました。また、文化庁委嘱協力事業「ふれあい家族教室」(体験学習「わくわく教室」、交流会)ではチラシ等の配布を通して、広く地域の皆さまに参加を呼びかけました。

本年度も残りわずかとなりましたが、スタッフ一同心を揃えて、子どもたちのためにより良い活動を目指したいと思えます。どうぞ、ご支援の程、よろしくお願い致します。

平成 17 年 2 月吉日  
NPO 法人 子どもの国 理事長



## 文化庁委嘱協力事業「ふれあい家族教室」

今年度の文化庁委嘱協力事業「ふれあい家族教室」では三回にわたり、保護者対象に「子どもの将来について、子どもに対して、親としてできること」を考えていくような場をつくりました。

9 月(第一回目)外国籍の子どもの進路について、分らないことや不安に思っていることを少しでも解消する目的で、進路の情報を伝え、質問や相談を受ける場を設けました。母国の教育制度が日本と違うこともあり「日本の小学校に落第が無く、皆中学校に進学できること。日本では中学は皆卒業して、96%が高校へ進学すること。大学又は専門学校へ行くことで、就職した時に高い給料が貰えること」など、日本人ならば当たり前のことも情報として提供していくことが大切であると感じました。参加者からは「大切なお話が聞けるのに、参加者が少ない。もっと多くの親が聞きに来るべきだと思う。」という感想もありました。

10 月(第二回目)には、助言者としてご自身がブラジルで我が子を育てた経験を生かし、1990 年から保見の子どもたちの日本語指導をしている久世淑子さんを迎え、「小学生の子どもに大切なこと・中学生の子どもに大切なこと」を学習面と親としての役割についてお話をして頂きました。久世さんは「子どもが日本の学校に入り、母国の学校とは違うと思うけれど、お父さんお母さんも一緒に、日本で色々な事を経験して、ブラジルと日本との違いを楽しんでほしい。」ということをおっしゃいました。また「学校の授業参観日に親が来てくれると子供はうれしくて頑張るものだから、仕事で忙しいかも知れないが、できる限り行ってあげて欲しい。」「中学へ入ったら、勉強面では学校の勉強を大切にすること。授業を大切にし、宿題を

しっかりとやり、きちんと提出するようにすること。授業の態度と、提出物は成績に反映される。」など、学習面、生活面で子どもたちにとって大切なことを具体的に伝えていただきました。久世さんのお話を聞き、参加者の方々もそれぞれ疑問に思っていることなどを話し、また、それについてスタッフも含め、参加者がそれぞれの立場からの意見を出し合い議論し合え、とても意味のある二時間となりました。

11月(第三回目)「子どもが親に望むこと」と題し、具志アンデルソンさんを囲んで話し合いました。具志さんが来日して当時の日本の小学校で感じた差別、「居場所」の無さ、また子どもは帰国が延びたり、はっきりとしないので、日本で勉強を頑張る気が起こらない。子どもには、ブラジルか日本か、安定させた教育を受けさせて欲しい。というような「子どもとしての思い、子どもが親に望むこと」を話して頂きました。具志さんのお話を聞いて、子ども達が「居場所」だと感じてくれる環境の大切さを改めて強く感じました。

この三回の「ふれあい家族教室」を振り返ると、これから中学へ進み、その後も日本で生きていく子どもの保護者へ、知っておかなければならない情報や、気付いて欲しい子どもの想い、子どもにとって大切なことを様々な視点から伝えることができたのではないかと思います。



### 12月18日(土)わくわく教室&交流会(クリスマス会)

わくわく教室ではカラー画用紙に自分の手形を写して切り取り、大人の身長くらいある大きな画用紙に貼り合わせてみんなで大きな手形ツリーを作りました。一人一人の手のひらが一つの葉っぱです。大きな葉っぱ小さな葉っぱいろいろな大きさが作られました。「来年もみんなしあわせにすごせますように」など、手形には今年あった事、楽しかった事、クリスマスに欲しい物、来年の目標などと名前が書かれました。その後行われた交流会ではみんなで持ち寄ったクリスマス料理やケーキを食べたり、サンタさんが来てくれてプレゼントを一人一人に手渡したり、ゲームが行われました。去年のサンタさんはすぐに正体がバレてたけど、今年はなかなか見抜けなかったようで子ども達は不思議そうな顔をしてました((+\_+))

わくわく教室も交流会もたくさんの参加があり、とてもにぎわい楽しく過ごす事が出来ましたが、来年度は子ども達が自分の事だけでなく、他の人の事も考えられるような思いやりのある子になってほしいです(\*^。^\*)

「手形ツリー」は私がずっと作りたかった作品です。ご協力ありがとうございました。  
(^-)



～子どもたちにインタビュー～

「2004年とっても楽しかった出来事はなんですか？」

Jくん: サッカーの大会で優勝したこと。

修学旅行でみんなでお風呂に入ったこと。

Aくん: 修学旅行でお風呂が気持ちよかったこと。

鹿にせんべいをやったこと。

Bくん: 学校の放課と算数の掛け算がおもしろかった。

Cちゃん: 習字で賞状をもらったこと。

Rくん: お母さんにプレステ を買ってもらったこと。

西保見タイムでサッカーをしたこと。

Fくん: 全部楽しかった。

Sちゃん: プールで25m泳げるようになったこと。

Mちゃん: 西保見タイムで魚つりをしたこと。

Tちゃん: ゆめの木にきていっぱい算数をやったこと。

学校で友達ができたこと。

Yくん: 電気の科学館へ行ったこと。

(これは前年のことなのですが、よほど印象に残ったのですね)

Mちゃん: ジャルジンで絵をたくさん描いたこと。

Hくん: 友達とゲームをやったり、お母さん妹と遊んだこと

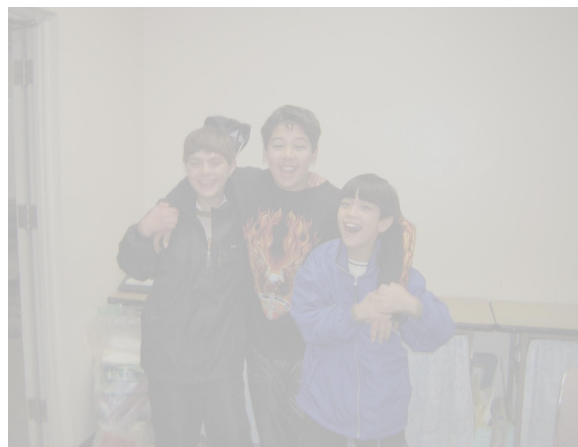
Hちゃん: 友達とあそんだこと。

学習の時間



もう少しで宿題が全部終了しまーす。

掃除の時間



掃除の時間なのに、おおあばれ中。

**NPO法人 子どもの国**

**ホームページ <http://www.kodomonokuni-aichi.org/>**

**メールアドレス [kodomonokuni1999@yahoo.co.jp](mailto:kodomonokuni1999@yahoo.co.jp)**